

## ～熊本地震 被災地レポート～

平成28年4月に発生した「熊本地震」で大きな被害を受けた益城町では、各施設の復旧に取り組まれており、久留米市からも3名の職員を派遣し復旧業務に従事しています。その中で、下水道施設の復旧のため派遣されている末安隆一さんに話を聞きました。

「私は、下水道管を復旧するための設計、積算や施工監督業務に携わっています。今まで経験したことがない業務もあり、責任とプレッシャーを感じることもありますが、日々、色々な事を学びながら業務に取り組んでいます。益城町の皆さんができるだけ早く安心して生活できるように下水道施設の早期復旧を目指し、これからも頑張りたいと思います。」



◀「下水道管を調査する様子」



▼「職場での打合わせの様子」



下水道マスコット  
キャラクター  
「スイスイ」

## 歴史探訪

### その1 久留米の水道

久留米市では、昭和5年から水道の給水を開始しました。市内には、歴史を感じる水道創設当時の施設が今も残っています。そのなかのいくつかを紹介します。



### 「伏流水集水埋渠」

筑後川の伏流水(ふくりゅうすい)を集水するために筑後川の河底5m下に埋めていたコンクリート管です。放光寺浄水場内に展示しています。



### 「栗林配水池跡」

昭和5年から昭和60年まで、当時の御井浄水場から送られてきた水を貯めて市内に供給していた配水施設の跡地です。現在は、水道施設の更新(予定)などに必要な土地として管理をしています。(山川町 良山中学校東側付近)



### 「水道踏切」

水道創設当時、下弓削取水場から御井浄水場まで水を送る導水管を埋設していた道路にある踏切で、水道踏切という名称が付けられています。(御井町 南筑高等学校東側付近)



### 「上水道資料館」

放光寺浄水場内にある資料館で、水道事業の歴史を伝えるために創設当時に使用していたポンプや流量計などを展示しています。見学を希望される方は、浄水管理センター(0942-43-5826)までご連絡ください。

# 久留米の水だより

■ 平成27年度決算

～筑後川のめぐみに感謝して～

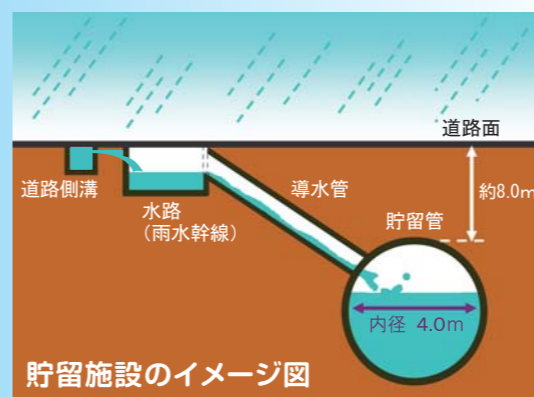
## トンネル型の地下雨水貯留管が完成しました。



東櫛原雨水貯留管の内部  
(内径:4.0m 長さ:900m 容量:12,000m<sup>3</sup>)

雨水貯留管は、大雨が降ったときに水路から水があふれないよう、一時的に雨水を貯めるための施設です。東櫛原雨水貯留管は、道路の下約8mの位置に整備したトンネル型の貯留管で、25mプール約27杯分の雨水を貯めることができます。貯留された雨水は、施設周辺の水路の水位が低下した後にポンプで排水します。

現在、この貯留管につながる導水管などの工事を進めており、平成29年度から使用できる予定です。



貯留施設のイメージ図

